



天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2019

秋田高校東京同窓会

〒106-0032
東京都港区六本木 5-16-5
インベリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087
Mail shuko-ob-jimukyoku@shuko-ob.net
http://www.shuko-ob.net/

2019年6月29日(土)

秋田高校東京同窓会 総会・懇親会

「平成」が終わり、新元号「令和」が始まります。中には、自分は西暦派であるので元号が変わろうが・・・という方もいらっしゃるかとは思いますが、公的書類での年月日記入等々、日本で暮らす上では元号と無縁というわけにはいかないのはいまでもありません。

俳人「中村 草田男」作の有名な句に「降る雪や明治は遠くなりけり」があります。生まれ育った明治から大正を経て昭和へとなる(なった)ことへの感慨・・・というだけでは解釈的に足りないものであろうかとは思いますが、現在同窓会で多数派を占める、「昭和」に母校を卒業し、「平成」を経て、「令和」を迎える皆さんには、感じるどころ多々ありではないかと思えます。

さて、新元号「令和」最初となる総会・懇親会、まもなく開催です。

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

開催要項

- 会場 …………… ハイアットリージェンシー東京 >>>
- 受付 …………… 16:00 ~
- 総会・事業報告 …… 16:30 ~
- 講演(鈴木伸弥氏) … 17:00 ~ 17:50
- 懇親会 …………… 18:00 ~

◆ 当日会費 ・ 8,500円

※ 同封の振込用紙にての前振込の場合は 8,000円です。

講演者

のぶや
鈴木 伸弥 氏
S49卒



明治安田生命保険(相)
取締役会長

4大生保の一角、団体契約数業界第1位の明治安田生命相互会社の取締役会長、鈴木 伸弥(のぶや)氏に講演いただきます。

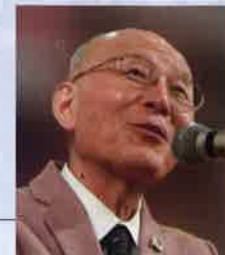
鈴木氏は1979年京大文学部を卒業し安田生命(当時)に入社。同社にて山形支店長、経営調査室長などに着任。2004年同社は明治生命と合併、明治安田生命相互会社となる。その後管理統轄部長、商品部長などを経て2008年に執行役員、2010年に常務執行役員、2013年同社7年ぶりのトップ交代人事において現職の取締役会長に就任。同時に社長に就任した根岸 秋男氏と共にアクチュアリー(保険数理人)の出身であることが生保では珍しいトップ人事として話題を呼んだ。

JR新宿駅西口
徒歩約9分
都営大江戸線
都庁前駅A7出口
C4通路徒歩1分
丸ノ内線
西新宿駅徒歩4分



東京都新宿区西新宿 2-7-2 TEL 03-3348-1234

橋本五郎の
AKITA
元気トーク



秋田高校東京同窓会 会長
橋本 五郎 S40卒

ふるさとで「バス」は走るか

秋田県山本郡三種町で全国では初めてという試みが行われようとしています。地元の人たちの運転による「巡回バス」の運行です。私のふるさと三種町では国と県の補助、町の負担金で民間の秋北バスが4路線と、町が直接運営する2路線が走っています。しかし、秋北バスはとて採算が取れないと撤退を決めたため、これを機に、町がワンボックスカーを貸与し、8つの旧小学校校区ごとに地元の人たちで運行してもらおうということになりました。その「実証実験」が10月から始まります。

今各地で町の地元説明会が行われていますが、一番の問題は、運転してくれる人の確保です。仕事を持っている人は難しい。とはいっても高齢者では事故が心配だし、何人かでローテーションを組む必要があるということで、最初はどうなることかと危ぶまれました。でも手を挙げる人も出てきて、ともかく走り出してみようということになりました。

地方では過疎化、高齢化が進む一方です。どうしたらいいのか。国全体の政策とは別に、住民自身が自分たちでできることをしようと思わなければなりません。そして高齢化をマイナスにばかり考えないことです。長く生きているということはそれだけ知恵と経験が積み重ねられたものがそこにあるということです。それを利用しない手はありません。地元による地元のための「巡回バス」はその試みの一つです。

私には3つの夢がありました。ひとつ目は廃校になった母校の小学校を図書館にすることです。ふたつ目はお年寄りが集まることが出来る家をつくることです。それは「橋本五郎文庫」と「五郎のえ(家)」として結実しました。残るのは、母が48年前に桜を植えてつくった「お年寄りの憩いの森」を整備することです。それも今踏み出そうとしています。「巡回バス」で老人が憩いの森に寄って花見をしている光景が今から目に浮かびます。

平成30年度 定期総会・懇親会 報告

平成30年6月30日 / 於：ハイアットリージェンシー東京

講演者
佐藤 菊夫 氏
S22卒
音楽家・指揮者



平成31年 大学生との交流会・新春賀詞交歓会 報告

平成31年1月26日/於：アルカディア市ヶ谷

秋田高校東京同窓会 平成31年 新春賀詞交歓会

【開催のご案内】

秋田の秋、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年1年も暮らなことが寂しくなりました。上野のシヤンシヤン人混みから始まり、皇太子御成婚・加川博樹で盛り上がり、6月には大塚で観覧600の地が広まりました。7月には熊谷まで41.1度という国内最高気温を更新し、その後も真夏の大人行風が日本列島を襲い、観望史上最大という日照時間も測られました。真夏真夏という大粒が降りました。そんな中、小学生で史上最高少人数になった参事委員会という団体が誕生し、本報記者がノーベル賞を受賞しました。面白いニュースです。

さて、例年通り秋田高校東京同窓会は賀詞交歓会を下取開催要項により開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今年のゲストスピーカーには日本フィルハーモニー交響楽団のチューバ奏者、平成15年度の 藤生 和夫 さん をお迎えします。交響楽団の一員としてのお話しや演奏に関する楽しいお話しがたっぷり聞けることと思います。

また今回も様々な分野で活躍の同窓生が出席し、交流を深める懇話の機会ですので友人をお誘いの上お申し込みください。

※2019年の誕生日が9月26日、おついで半年の5月19、29、30、31、6月19、30日です。参加費をよろしくお願いいたします。

開催日時 **平成31年1月26日(土)**

- 会場 アルカディア市ヶ谷(私学協会) >
- 受付 16:30 ~
- 講演(藤生和夫氏) 17:00 ~ 17:50
- 賀詞交歓会 18:00 ~ 20:00

◆ 当日会費・8,500円
※ 地区別別定での振込の場合8,000円です。

<講演者紹介>



藤生 和夫氏 秋高 H15年卒
音楽家=チューバ奏者

秋高卒業後、2007年秋田県立大学教員(化学部)に。2010年秋高同窓会を設立。2017年秋高同窓会(私学協会)を設立。2019年、秋高同窓会(私学協会)を設立。2019年、秋高同窓会(私学協会)を設立。2019年、秋高同窓会(私学協会)を設立。



秋田高校東京同窓会
〒104-0002 東京都港区赤坂5-1-15
アルカディア市ヶ谷 10F
開催日時: 平成31年1月26日(土)
16:30~20:00
〒104-0002 東京都港区赤坂5-1-15
アルカディア市ヶ谷 10F
開催日時: 平成31年1月26日(土)
16:30~20:00
http://www.shuho-kyokai.jp



講演者
藤生 和夫氏
H15卒
音楽家
日本フィルハーモニー交響楽団
チューバ奏者




平成31年新春賀詞交歓会 案内



寄稿

「平成30年度 定期総会・懇親会」に寄せて.....

西川 あかり H24卒

この度初めて東京同窓会の総会・懇親会へ参加させていただきました。最初会場へ足を踏み入れたときは、私よりもはるかに上の先輩ばかりで少し緊張しましたが、皆さま温かい方ばかりで、気さくに話しかけてくださり、大変有意義な時間を過ごすことができました。今の秋田高校の近況を伺ったり、久しぶりに校歌を斉唱したりするうちに高校時代のことが蘇り、大変懐かしい気持ちになりました。また年齢の近い先輩もいらっしゃって、私たち世代の同窓生の近況報告もし合うことができました。

今回は初めてお会いする方ばかりでしたが、同じ校舎で学んだというこの繋がりも多くの皆様と打ち解け、たくさんのお話をすることができました。同窓会という場がいかに貴重なものか、改めて実感しました。

また私は今年で社会人2年目ですが、今取り組んでいる仕事の話もじっくり聞いてくださり、社会人の先輩としても多くの貴重なアドバイスを下さいました。さらに、各分野の第一線で活躍されている諸先輩方の話もお伺いして大変刺激を受け、私も後輩に恥じない秋田高校の先輩になりたい、と改めて思いました。今回は貴重な機会をいただき、ありがとうございます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

大窪 克之 S60卒

かつてなく早く梅雨が明けた6月30日、都庁の影を映す強い西日に本格的な夏の始まりを感じながら、今年も夏の東京同窓会へと向かいました。

午後一の用事が伸びたため、会場に着いたのは5時半前。懇親会には間に合ったかな、と思ってそっとドアを開けると、スクリーンには、佐藤菊夫先輩が指揮する「大いなる秋田」の第三楽章が流れていました。席を見つけて腰を下ろしてまもなく「秋田県民の歌」が始まりました。

音楽とはすっかり縁遠い世界にいる私でしたが、「秀麗無比なる鳥海山の～」と流れると、続く歌詞を自然に口ずさむことができ

ました。私にとっては唯一無二の県民歌なのだ、と改めて思いました。

と、橋本会長のお声があつて、第四楽章も楽しむことができ、思いがけず、秋田県民の歌も聴くことができました。「朝焼け雲の色はえて～」、今回の前にこの曲を耳にしたのがいつだったかは、、、ちょっと思い出せません。実家を処分して10年が過ぎ、最近秋田に帰ることもないため、「ああ あこがれのわが秋田」の歌声に少し胸が熱くなりました。

開始が少し遅くなったもののにぎやかに懇親会が始まりました。ほとんどの方が自分より年上で、皆様の話し声はどことなく懐かしい響きでした。いずれの方も、心から楽しんでいらっしゃる姿が印象的でした。各界でご活躍されているながら、いや、活躍されているからこそ、素敵な笑顔なのだと思うと、皆様の笑顔がとても良い刺激になりました。今回は慌ただしかったのですが、次回も東京同窓会に参加し、同窓の方々と交流を深めていきたいと思えます。引き続きよろしくお願いいたします。

松永 敦 S60卒

参加する度に新たな発見がある。

最初は2年前。友人に誘われ仕方なくだったか、地元を懐かしんでいったか。積極的にというよりは、受け身のまま参加。参加して周りを見渡すと、ご高齢の方ばかり。自分ももう随分いい年になっているものの、諸先輩がたと合わせる話があるのだろうか不安になる。一方、中堅どころの年代はいないが、20代くらいのOBはチラホラと。上に下に世代ギャップを感じながらも、初回は同じ部活の先輩方と遭遇でき、無事楽しむことできた。以後、友人への義理立て半分、参加を続けてみると、毎回、新鮮な発見があることに気づく。みんな若い(精神的に)。本当に若い20代30代は、しっかりとした考えを持ち頼もしい。20代の頃の青い思いを思い出し刺激を受け、諸先輩と話すことで近い将来の海図を手にする感覚を得る。こんな機会はなかなか得られない。

今回は、ほぼ同年代の先輩と近況をかわすこともできた。これもまた、別のアドレナリンが出るような刺激。

加えて、伝説の先輩とも出会えた。今、お世話になっている会社に入社した際、その方と入れ替わるような格好となったが故に、また、同じ秋田県出身であったために、比較されることが多く、会ったことはないが煩わしい先輩。その先輩は、同じ秋田県出身であるだけでなく、実は秋高の先輩でもあった。しかも向こうから声をかけてきた。こんな偶然の機会、新たな発見がある同窓会は他にない。かもしれない。

近藤 元 S59卒

秋田で5年ごとに行われるS59卒の同窓会には可能な限り参加していましたが、期を超えた同窓会が東京で行われていることは恥ずかしながら存じ上げませんでした。今般、9年間の単身赴任を終えて東京勤務になったことを機に同期の諸井政典さんと再会した際に東京の秋高同窓会があるとお聞きし初めて参加させていただきましたが、私自身にとって、以下の点でとても意義深いものであったと思います。

一つには、改めて、秋高の卒業生であることを誇りに思ったということです。諸先輩方のお話しをお聞きし、秋高の卒業生が様々な分野で活躍していることを改めて認識するとともに、自分がその一員であることをとても嬉しく思いました。

二つには、私を育ててくれた秋高に恩返しをしたいと思ったことです。食堂の復活プロジェクトに経済面で貢献する、就職活動を目前にした卒業生に先輩としてアドバイスをすることの他にも、何かできることはないか、何か貢献をしたいという気持ちになりました。

三つめとしては、ふるさと秋田に何らかの貢献をしたいと思ったことです。東京に居ながら貢献できることとして、ふるさと納税はずっと続けてはいますが、これ以外にないか、これから考えたいと思いました。

母校や故郷に恩返しなどと考えていなかった自分がこのような心境になり、今般の同窓会は、私自身を成長させてくれたとても良い機会だったのではないかと思った次第です。

三浦 幸雄 S46卒

先日の東京総会の交流会の際に、もっとこうしておけば良かったな～と寝覚めが悪く、ちょこっと吐き出させてけれ。

途中、尺八の先輩のところで46年卒二人で乱入しました。「うだっこねばとじえねな」ということで。新秋田節と長持唄。その時に、自分の歌を終えてさっさと引き上げてしまっって最後まで付き合えば良かった、先輩さわりがったな、と。それと最後にドンパン節を唄いたかったなとも。

どんだんぱんぱん、どんぱんぱん
ドドパッパ、ドドババ・・・
東京の親父は、はげあだま～
秋田の親父も、はげあだま～
はげどはげどが一緒になって、
世界にひらげるビッグバンだ～～～
どんだんぱんぱん、どんぱんぱん～

と、一発やって、ちょこっとだけコメントせば良かったな・・・と。
今、東北大学の青葉山キャンパスに東北放射光の整備が開始されました。素粒子科学の実験場です。それと、岩手山地、奥州市と一関市に国際リニアコライダーの誘致が山場を迎えています。
国際リニアコライダー(ILC)は、陽電子と電子をぶつけてちっちゃなビッグバンを再現しヒッグス粒子を研究する世界で1つの大実験・研究所で、今年中に政府も名乗りをあげる情勢になっています。世界中から科学者や技術者が集まってきます。
放射光もILCも文科省の分野なので秋田の親父は当然ご存知のはずだし、東京の親父も誘致は知っているのではないかなと。
最近、秋田県内でもILCに関連して産業界でも仕事になりそうだと動き始めているようです。市の商工会議所の会頭もいらしたので、三人に話せば良かったかなと・・・
ですので、この機会に顔の広いお二人に音頭を取ってもらい秋田県内でも整備や、成果の活用に走ってもらいたいものだな～と。私は、物理学者ではないので、実験研究所は分野外で手は出せま

せんが、世界中からやってくる研究者のためでもある、地域の活性化や街づくりの方でさっとお手伝いをしています。ネガティブなことの多い秋田ですが、秋田も乗り遅れないで活用してほしいな～～～ということです。ILCの完成までは15年～20年はかかるのですがね。

秋田、そして東北には、しっかり元気になってもらいたい！

田原 清彦 S45卒

グローバルビジネスへの原点

昭和45年卒田原清彦です。平成30年6月30日(土)に開催された定期総会に参加、そして記念講演として佐藤菊夫先輩のお話をお聞かせいただく機会に恵まれ大変感激しました。

中学、高校、大学を通じて吹奏楽に傾注してきた私は秋田高校時代も吹奏楽部メンバーとして首席クラリネット・学生指揮を担当していました。

佐藤菊夫大先輩の指揮人生が書かれた書籍やDVDを通じて“大いなる秋田”を鑑賞でき、故郷秋田、秋田高校を改めて思い起こしました。

1968年の高校2年生の時に秋田高校、横手高校、大館鳳鳴高校、山王中学による合同バンドで作曲家・石井敏先生ご自身の指揮のもとで秋田県民会館において初演レコード録音をした際の演奏メンバーの一人でしたので今回のオーケストラバージョンは大変興味深いものがありました。

年齢を重ねると懐かしいふるさとを思い出しますがその思い出の中にはいつも母校があり、うぐいす坂を上って正面入り口の右側にあった音楽室で過ごした時間を今でも鮮明に思い出します。

プロの演奏家を目指そうかな、という思いもありましたが好きな英語を駆使してグローバルなビジネスにかかわる事も夢の一つでした。

3年生の時の担任教師のちに校長になられる榊田清先生(英語担当)でした。榊田先生は“君は英語を駆使して海外で活躍するグローバルビジネスへの夢を実現したほうがいい”と指導してください貿易学科がある神奈川大学に進学しました。

大学在学中に“これからは航空貨物”と判断して卒業後に国際航空貨物輸送業者(株)近鉄エクスプレスに入社しました。

近畿日本ツーリストの貨物部門が独立した会社で当時の社員数は200名ほどといわば創成期と言われる頃です。秋田高校出身の先輩お一人が当時香港に駐在しており、その後社内で秋高同窓の後輩として長い間かわいがってくれました。

私は17年にわたる海外駐在(アメリカ、フランス)を経て最終的に役員として経営にも参画でき、現在では世界各国、総計18,000名を抱える航空・海上貨物輸送、ロジスティクス分野で大手フォワーダーに成長しました。グローバルビジネスへの関与を夢みて秋田高校時代にしっかり勉強したことや過ごし方が大きな原点であったと感じています。

土崎港からロシアに向けて出港する船や国際教育を実践する大学が秋田に存在していることを思うときに故郷秋田がグローバルな面でも発展してほしいと思う今日この頃です。

播摩 吉男 S43卒

夏も盛りの6月末、未だ経験したことのない『酷暑』のなか何年振りかで東京同窓会総会に出席しました。東京交響楽団の指揮者などを歴任された佐藤菊夫氏のご講演には、大芸術家を先輩にもち、自然と誇らしい気持ちになりました。また、「秀麗無比なる」の秋田県民歌を斉唱し、『篤胤信淵・・・錦旗を守りし戊辰の栄』のくんだりでは、幕末・維新の歴史で秋田・佐竹藩が果たした重要な役割に想いを馳せた方も少なくなかったのでは？と思います。
世代を超えて先輩後輩の秋高OB・OGと直接交流できるのが東京同窓会の楽しみです。グローバルに活躍されている経営者の方がおられるかと思うと、新進の若手俳優として活躍している後輩の方もいらっしゃいました。
最後に同期(S43年卒)についていうと、銭谷眞美・東京国立博物館館長には、開会の挨拶をしてくださいました。また、過密スケジュールの合間を縫って駆けつけてくれた、金田勝年・前法務大臣は相変わらず元気と迫力をアピールされました。団塊の世代、ここにあり！なんとも、心強い限りです。

「平成31年 大学生との交流会・新春賀詞交歓会」に寄せて

小熊 涼太 H29卒

来年度から学部3年になります、小熊と申します。1月26日に行われた大学生と社会人の交流会ならびに新春賀詞交歓会に出席し、「目標の明確化」と「それに向けての達成するプロセスの想像」、固く言ってこの二点ができた、非常に有意義な時間だったと私は思いました。

僕を含めた就職活動がこれからという学生は、社会人として現役バリバリで活躍してらっしゃる秋田高校OBの先輩方とお会いし、一対一で熱くお話する貴重な機会をいただきました。その場において私は、少々話好きなものもありますが、時間ギリギリまで今必死に取り組んでいることから、将来の展望、現在の悩みまで多岐にわたってお話をさせていただきました。それらに対していくつか先輩方からアドバイスをいただきまして、それが先ほど挙げました目標の明確化とそのプロセスの想像に対する、ヒントのようなものです。一例を挙げるならば、ある先輩は目標達成のために、現在ロサンゼルス・エンゼルスにて活躍されている大谷翔平選手が、高校一年生でやっていた自身の目標を曼陀羅のように書き、中心から外側に向けてだんだんと細分化することにより、目標が見やすく、達成しやすくするという方法を伝授してくださいました。現在将来の職業やその後の自身の展望に悩む私にとって、すぐ役立つものでありました。長々と語りましたが、実際はもっとカジュアルな雰囲気では関係のないような雑談にまで興じてくださる、とても楽しい会となっております。ぜひ今回来られなかった学生の皆様や、僕ら学生の若さに肌で触れたいOBの皆さま、どうか次回はお会いして親睦を深められればと思っております。

佐藤 恵美子 H15卒

1月26日、新春賀詞交歓会に参加させていただきました。同級生である柳生和夫さんの講演があるとのことでしたので、それが後押しとなって参加を決めました。柳生さんは現在日本フィルハーモニー交響楽団に所属し、国内外で公演をされていますが、このような楽団にしかもチューバで入団するのは、本当に本当に狭き門との

とです。学生時代から入団までの努力や苦勞、その中でも周りの方に恵まれた話などを秋田弁を交えながら面白おかしくお話させていただきました。交歓会においては、秋田出身のバイオリニストの方とチューバを演奏してくだり、とても豪華な会となりました。実は高校当時、私は柳生さんとの関わりは全くなく(たぶん)、写真を拝見してももはや実物と対面しても同級生だったかな?とってしまうほどご本人に対する記憶はありません。ですが、2次会では初対面とは思えないくらい(本当は初対面ではないと思いますが)友人を交えて楽しくおしゃべりさせていただきました。また、メディアで有名な橋本五郎さんも参加されていたので、ご挨拶しに伺ったところ、橋本さんは満面の笑みで「まずながまれ」と気さくに言ってくださり、一緒に写真撮影もしてくださいました。

長い人生のうち高校3年間を過ごした場所が秋田高校であるということのみをもって、普段お会いできない方々と交流できたり、当時関わりがなかった方ともすぐに打ち解けることができたり。同窓というつながりは非常にありがたく、貴重なものであると感じます。最近は参加者が減ってきているとのことですが、このような会が継続できるよう今後もたくさんの方々に参加していただきたいと思っております。

山田 晃史 H15卒

約3年ぶりに東京同窓会へ参加しました。前回は卒業予定の大学生との交流会であり、新春賀詞交歓会への参加は初めてでした。私は年次理事として秋田で開催される同窓会、理事会にも参加することもあります。秋田から離れた東京の地でもこのような同窓会が毎年開催され、かつ数多くのOB・OGの先輩方が出席されているということに深い感慨を覚えるとともに、秋田高校同窓生としての一体感というものを感しました。

今回の講演では、同級生だった日本フィルハーモニー交響楽団のチューバ奏者である柳生和夫さんが登壇し、チューバ奏者になるまでの道のりを秋田弁と笑いを交えながらお話いただきました。日本だけの活躍にとどまらず、海外でもコンサートを開催し成功を収め、また秋田でもソロコンサートを開催するなど輝かしい功績と音楽という文化を地元で広げる活動に貢献していることに同級生として誇り

に思いました。

会の最後には、橋本五郎東京同窓会会長が登壇され、ある有名政治家の言葉を引き合いに出されていました。

「宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える」

この言葉を受け、自分は自分の人生をどう考え、どう生きているのかを改めて考えさせられ、そして心を揺さぶられる言葉でした。

秋田高校をとおして経験したこと、できたつながり、全てが私の財産と改めて感じられる会でした。今の自分に何ができるかを考え、自分の経験を後輩たちに還元していきたいと思っております。

仲村 吉広 S62卒

遅ればせながら、今回初めて交歓会に参加しました。秋田を離れて30年以上たち、ふるさととのつながりをより深めたいと感じていたからです。ちなみに、本同窓会については、秋田県人会WEBサイト「秋田好き生まれ!あきたじん」から、その活動を知り、また、ここを通じ入会しました。「秋田好き生まれ!あきたじん」には、各地の県人会・ふるさと会・同窓会等が紹介されており、ふるさととのつながりを深めたい方には、まさにうってつけと思えました。

初めての参加で、内心心配なところもありましたが、同じ高校で学んだというところに共通の話題があるからか、初対面とは思えないほど、話がはずみました。また、講演会でお話しいただいた、柳生さんと同じ小学校・中学校出身なことが分かり、より身近に感じました。

昨年は、金農で盛り上がりましたが、私が高校2年生のとき、春のセンバツ甲子園に秋田高校が出場し、応援に行きました。開会式直後の試合で、開会式も見ることができ、勝って校歌を歌いました。なかなかこのような経験をした人はいません。秋田高校の「文武両道」の精神を感じます。

今回は、周りの秋田高校卒業生にも声をかけ、参加したいと思っております。最後に、幹事の皆さま、ありがとうございました。

同期会だより

◆平成12年卒 同期会を開催しました

辻村 直也 H12卒

2018年6月30日、秋田高校東京同窓会の総会の後、恩師安田浩幸先生(現秋田高校校長)を囲んで平成12年卒の同期会が行われました。

安田先生は、平成12年卒の世代が高校入学時の1年生から3年間にわたり担任を受け持たれ、同時期に女子テニス部の顧問も務めていらっしゃいました。

同期会には、安田先生とクラス担任や部活などを通じて縁とゆかりの深い卒業生13名が集まりました。

卒業して18年。それでもお互い相手の表情の奥に昔の姿を思い出すにつけ、自然と当時のノリや思い出が蘇ってくるから不思議です。

久しぶりに集まる秋高生同士の集まりとあって、昔話に花を咲かせたり、社会人らしくお互い名刺交換をしたりと、各自思い思い宴席を楽しんでいました。



秋田の話題から

◆男鹿のナマハゲ、ユネスコ無形文化遺産登録!!

秋田犬の人気や夏の甲子園大会での金足農旋風と、秋田県出身者には何かと嬉しい話題が届いた2018年でしたが、もう一つ忘れてはいけないのが、同年11月29日に男鹿のナマハゲが「来訪神：仮面・仮装の神々」として全国の来訪神行事と共にユネスコの無形文化遺産に登録されたことでしょう。

来訪神と呼ばれる神は、かぶりもの(仮面)を被って変装した神であることが多く、一年の内のある時期(大晦日であることが多い)に変装してフラッと現れて人々に幸福をもたらしたり、戒めを授けたりします。そして用件が済むとこの神はフラッと帰っていきます。また来訪神というのは常に神社などにいるわけではなく、その一定の時期だけに来るという特徴があります。このような形態を持つ祭りという

ものが日本中に分布しており、とても特異な行事として以前から注目されていました。

その来訪神行事の一つであるナマハゲは日本政府がかねてより世界遺産に登録しようと奮闘していた祭礼だったそうです。2011年にユネスコ無形文化遺産保護条約政府間委員会に登録を打診するも、2009年に登録されていた甕島(こしきじま)のトシドンと酷似していたため、登録ではなく情報照会の扱いと

なります。そこで関係者は頭をひねります。日本で来訪神行事として国指定重要無形民俗文化財に指定されているのはナマハゲを含めて10件。2016年に甕島のトシドンを拡張し、その10件を日本の「来訪神：仮面・仮装の神々」としてグループ化して提案。結果その全てが今回のユネスコ無形文化遺産登録となったのでした。

ナマハゲといえば赤と青の鬼のお面を被った地元の衆が二人一組で家々を訪れる様が一般的に知られるイメージですが、集落ごとにやり方やお面が違ふとか、起源とする説も様々あります。

改めてナマハゲのあれこれを調べに行くのも面白いかもしれませんね。

(参考：秋高連会報第9号 他)



●平成30年度/会費納入者一覧

平成30年4月1日～平成31年3月31日 現在

昭和20年 小沢 曉民
昭和20年 清水 高義
昭和21年 加藤 日出男
昭和21年 那小屋 豊
昭和22年 加藤 三朋
昭和22年 佐藤 菊夫
昭和23年 明石 康
昭和23年 小野寺 正周
昭和23年 菅原 寛治
昭和23年 星野 恒雄
昭和25年 神 泰雄
昭和25年 中崎 致和
昭和26年 五十嵐 泰弘
昭和26年 伊藤 隆
昭和26年 小原 巖
昭和27年 石山 喜章
昭和27年 加藤 明男
昭和27年 渋谷 潤
昭和27年 高橋 恒雄
昭和27年 三矢 慶三
昭和29年 井上 昭則
昭和30年 秋山 文平
昭和30年 大塚 正民
昭和30年 佐藤 敬幸
昭和30年 澤瀉 明
昭和30年 鈴木 妙子
昭和30年 高橋 捷郎
昭和30年 松沢 研二
昭和31年 相場 三郎
昭和31年 伊勢 諒吾
昭和31年 大本 香津子
昭和31年 柿崎 正
昭和31年 佐々木 行
昭和31年 佐藤 公隆
昭和31年 高橋 壽夫
昭和31年 高橋 文夫
昭和31年 中川 信夫
昭和31年 中村 啓一
昭和31年 原田 善治
昭和31年 渡邊 徹
昭和32年 男鹿谷 和美
昭和32年 栗林 弘
昭和32年 戸嶋 成忠
昭和32年 二木 芳郎
昭和32年 松田 祥男
昭和33年 今野 昭
昭和33年 大平 温
昭和33年 熊谷 光太郎

昭和33年 宮野 元
昭和34年 板倉 義雄
昭和34年 上原 典子
昭和34年 佐藤 宏二
昭和34年 高橋 恒松
昭和34年 武藤 良孝
昭和34年 山田 信子
昭和35年 小泉 忠一
昭和35年 吹浦 忠正
昭和36年 岩堀 泰雄
昭和36年 大島 斐子
昭和36年 柏木 征彦
昭和36年 金崎 史
昭和36年 佐藤 正純
昭和36年 須磨 洋次郎
昭和36年 西野 義久
昭和36年 船木 茂
昭和36年 村山 公士
昭和37年 伊藤 清信
昭和37年 柴田 捷司
昭和37年 田淵 暲
昭和37年 渡部 宏
昭和38年 伊藤 博康
昭和38年 佐々木 博章
昭和38年 武田 義之
昭和38年 千葉 邦雄
昭和38年 湯澤 邦彦
昭和39年 明石 貞一郎
昭和39年 阿部 信泰
昭和39年 佐々木 敏文
昭和39年 佐々木 偉義
昭和39年 佐藤 二郎
昭和39年 高橋 理輔
昭和39年 高村 國男
昭和39年 原田 幸雄
昭和39年 二木 猛
昭和40年 岡本 宣子
昭和40年 加藤 弘次
昭和40年 河田 章
昭和40年 佐々木 唯夫
昭和40年 佐藤 三郎
昭和40年 中西 祥子
昭和40年 橋本 五郎
昭和40年 山田 義昭
昭和41年 板澤 幸雄
昭和41年 大槻 幸一郎
昭和41年 加藤 貢
昭和41年 佐藤 和夫

昭和41年 猿谷 彰
昭和41年 成田 佳孝
昭和41年 田口 憲明
昭和41年 堀内 一志
昭和41年 緑川 稔秀
昭和41年 湊 亮策
昭和42年 大野 省治
昭和42年 大森 正高
昭和42年 渋谷 潔
昭和42年 清水 光雄
昭和42年 高橋 和正
昭和42年 武内 暁
昭和42年 田村 信次
昭和42年 畑山 康幸
昭和42年 原田 賢作
昭和42年 吉村 和就
昭和42年 那波 健司
昭和43年 小柳 清光
昭和43年 金田 勝年
昭和43年 神坂 光
昭和43年 小島 良子
昭和43年 後藤 一
昭和43年 柴田 司
昭和43年 進藤 孝生
昭和43年 銭谷 真美
昭和43年 田村 慶則
昭和43年 千葉 真知子
昭和43年 西岡 清一郎
昭和44年 秋山 正子
昭和44年 五代鶴 俊悦
昭和44年 老松 秀明
昭和44年 尾形 均
昭和44年 高橋 裕次郎
昭和45年 東海林 和彦
昭和45年 武田 好史
昭和45年 田原 清彦
昭和46年 金澤 光隆
昭和46年 佐々木 孝子
昭和46年 成田 裕一
昭和46年 藤川 長敏
昭和46年 前川 仁
昭和46年 三浦 幸雄
昭和47年 浅野 美智子
昭和47年 加賀谷 博史
昭和47年 鎌田 進
昭和47年 工藤 敏夫
昭和47年 柴田 紀彦
昭和47年 長谷川 和弘

昭和47年 三浦 明範
昭和48年 石川 俊明
昭和48年 大橋 朗
昭和48年 荻津 郁夫
昭和48年 鎌田 裕泰
昭和48年 齊藤 正範
昭和48年 榊 純一
昭和48年 東海林 豊
昭和48年 菅埜 誠
昭和49年 白石 好
昭和49年 高橋 伸
昭和49年 館山 英昌
昭和49年 松井 利一
昭和50年 網干 博文
昭和50年 清野 多賀子
昭和50年 平野 春夫
昭和50年 渡辺 正剛
昭和51年 鈴木 香
昭和51年 那波 宗彦
昭和52年 伊藤 博基
昭和52年 金子 治生
昭和52年 鈴木 久彰
昭和53年 石井 清明
昭和54年 小玉 正志
昭和54年 小柳 宏
昭和54年 齋藤 頼太郎
昭和54年 佐藤 克有
昭和54年 吉田 朝子
昭和55年 有路 直樹
昭和56年 石川 了
昭和56年 百瀬 和
昭和58年 青山 卯女
昭和58年 阿部 充
昭和58年 石井 浩郎
昭和58年 工藤 亨
昭和59年 伊保谷 徹
昭和59年 近藤 元
昭和59年 諸井 政典
昭和59年 渡部 博
昭和60年 大窪 克之
昭和60年 佐藤 直子
昭和60年 佐藤 映
昭和60年 武田 哲伸
昭和60年 西尾 薫
昭和60年 原 祥子
昭和60年 松永 敦
昭和61年 布田 孝代
昭和61年 三浦 寛剛

昭和62年 齊藤 敬
昭和62年 仲村 吉広
平成01年 高野 真理
平成02年 高田 真生
平成03年 佐藤 慶
平成03年 渡部 陵
平成04年 浅野 健司
平成04年 横井川 奈緒
平成07年 安田 亨
平成08年 柳澤 奉享
平成09年 伊勢 祥馬
平成11年 大瀧 洋
平成12年 松本 淳志
平成14年 塩野 葵
平成15年 柳生 和大
平成15年 山田 晃史
平成16年 小田嶋 希実
平成16年 佐藤 佐知子
平成16年 佐藤 秀
平成19年 笠原 伸之輔
平成21年 進藤 拓実
平成22年 藤嶋 昂平
平成23年 大島 実貴
平成23年 渋谷 宏次郎
平成24年 西川 あかり

ご協力に感謝いたします

会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願いいたします。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。今年度会費納付済み方に重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。郵便局の口座番号は次のとおりです。

00150-0-353596
「秋田高校東京同窓会」

●同窓会本部事務局だより

本部事務局長 柏木 幹夫 S46卒

平成30年度同窓会入会式が2月28日、母校体育館において執りおこなわれました。今年度は、272名の新入会員、卒業生を迎えました。翌日の卒業式では、制服姿はほとんど見かけられず、卒業生代表(男子)の答辞は袴姿という出で立ちでありました。

さて、平成30年度も同窓会は活発な活動を展開して参りました。昨年9月には『同窓会員名簿第41号』を発行し、1,300人を越える会員のお手元にお届けしました。

また、企画委員会では、教育振興基金の充実を図るため、同窓会グッズの頒布に注力しております。マフラータオルを中心に、クリアファイル、ボールペンなどを取り扱っております。教育振興基金は、アメリカ研修はじめ母校の教育支援にあてられます。

更に、郷土創生特別委員会の『食堂復活プロジェクト』では、皆さんからの多大なご支援により、この4月からいよいよ食堂が復活です。『文武両道のその前に、飯。』を合い言葉に10年ぶりに学食が復活します。是非、食べにお越しください。

●幹事長だより

東京同窓会幹事長 鎌田 進 S47卒

例年3月上旬になると、伊豆の河津さくらの話題になり春が近づいてきていることに気付かされます。そして3月15日までの確定申告が終了する頃になるとどんどん春めいてきます。今年の冬は暖かかったり急に寒くなったりで気候の変動についていくのに苦労させられました。

秋田高校東京同窓会は年2回、皆さんが集まる機会を設けていますが若い方々の参加がなかなか増えないのが悩みです。魅力ある同窓会にするためにどの様にするか試行していきたくと思っています。どんどん皆さんからもアイデアを出して頂きたいところです。

秋田県は人口減少県で有名になっていますが、東京同窓会もそのようにならないように若い世代の人たちに参加をお願いします。日本のあちこちに限界集落があり、あと10年もしたらその集落が無くなってしまおうところが出てきます。世界の中でも大都会である東京で「秋田高校東京同窓会」が限界集落と同じようにならないよう若い世代の人に期待したいと思っています。

どうぞ一人でも多くの方の参加を切にお願い申し上げます。